核磁気共鳴(NMR)を用いた 蛋白質の立体構造解析

首都大学東京大学院理工学研究科 伊藤隆

NMRを用いた蛋白質の高次構造解析



核スピンエネルギー順位のゼーマン分裂

 $\Delta E = h\gamma B_0/2\pi$ B_0 :静磁場強度 h: プランク定数 $\gamma:磁気回転比$ $\Delta E = hv$

 $v = \gamma \boldsymbol{B}_0 / 2\pi$

¹³C核のγは¹Hの1/4 ¹⁵N核のγは¹Hの1/10





0. 試料調製. 安定同位体標識. どのくらいの量の蛋白質が必要か?



現在では、0.5mM以下の濃度でも充分高次構造解析が可能!

O. 試料調製. 安定同位体標識.

~0.5-1mM程度の濃度が必要.
一般にX線結晶解析に必要な量よりも多く必要である.
効率の良い蛋白質発現系を構築する必要がある.

 異核種多次元NMRのために、蛋白質を ¹³C, ¹⁵N, (²H)で標識する必要がある. 最小培地で十分な発現が必要. 無細胞蛋白質発現システム(?).
 蛋白質の性質(大きさ,溶解度等)に即した標識.





1. NMR測定.

蛋白質のNMRで用いるパラメータ.









核オーバーハウザー効果(NOE)



NMRシグナルの帰属











観測軸(dimension 1)

間接観測軸 dimension 2 /

¹H-¹⁵N HSQC

¹H-¹⁵N HSQC測定は蛋白質の立体構造 解析を目指したプロジェクトで最初に測定 する異種核相関NMR.

■状態変化のモニターや種々のタイトレー ション実験などで広く使われる.



$$\begin{split} H_z &\to -H_y \to (-H_y \cos 2\pi J \delta + 2H_x N_z \sin 2\pi J \delta) \\ &\to 2H_x N_z \to -2H_z N_z \to 2H_z N_y \\ &\to 2H_z N_y \cos \Omega_1 - 2H_z N_x \sin \Omega_1 \\ &\to 2H_z N_z \cos \Omega_1 \to -2H_y N_z \cos \Omega_1 \\ &\to (-2H_y N_z \cos \Omega_1 \cos 2\pi J \delta + H_x \cos \Omega_1 \sin 2\pi J \delta) \\ &\to H_x \cos \Omega_1 \end{split}$$





1. NMR測定.

主鎖シグナルの帰属のための測定. (1) HN(CO)CA/HNCA, (2) CBCA(CO)NH/CBCANH, (3) HNCO/HN(CA)CO etc. 側鎖シグナルの帰属のための測定. (1) HBHA(CO)NH, (2) H(CCCO)NH, (3) (H)CC(CO)NH, (4) HCCH-COSY/HCCH-TOCSY etc. NOE解析のための測定. (1) ¹⁵N-separated NOESY, (2) ¹³C-separated NOESY, (3) 4D ¹³C/¹³C-separated NOESY etc. ■ 二面角情報解析のための測定. (1) HMQC-J, (2) HNHA, (3) HNHB/HN(CO)HB etc.

NMR測定に要する時間.

主鎖シグナルの帰属のための測定. CBCA(CO)NH/CBCANH HNCO/HN(CA)CO 側鎖シグナルの帰属のための測定. HBHA(CO)NH H(CCCO)NH (H)CC(CO)NH **HCCH-TOCSY** ■ NOE解析のための測定. ¹⁵N-separated NOESY ¹³C-separated NOESY

~ 4日(2日+2日)~ 4日(1日+3日)

•	2日
•	2日
•	3日
•	4日

~	6日
~	6日

~32日

計



CryoProbe システム概要(Bruker提供資料による)

コイル部および プリアンプ部を冷却. 高温超伝導体使用.

従来型プローブと 比較してS/N比が 約3倍向上.

従来と比較して1/9の 測定時間で同じS/N比

CryoProbe[™] **CryoPlatfome**[™] 冷Heガス

分光計



<u>2.データ処理</u> <u>d1 多次元フーリエ変換の概略</u>.

d1方向

FT

n an an ann an Arland Arland an A Arland an A

d2

d3⁻

d3方向 FT

d2方向

FT





ς,

2. データ処理.

3次元/4次元スペクトルのデジタル分解能向上. (1) Linear Prediction, (2) Maximum Entropy Method etc.



最近,迅速な多次元NMR測定を可能にするような新たな 測定法+データ処理法が多数報告されるようになった.

NMR resonance assignment NOE-based assignment strategies



³*J*_{HH}: COSY, TOCSY, 3D ¹⁵N-separated TOCSY, ... NOE: NOESY, 3D ¹⁵N-separated NOESY, ...

NMR resonance assignment Assignment based on J-correlations



Uniform ¹³C/¹⁵N-enrichment is required!

NMR resonance assignment Assignment based on J-correlations









 ${}^{1}H_{N}$





¹³C^α/¹³C^β chemical shifts



Side-chain NMR resonance assignmentHBHA(CO)NHCBCA(CO)NHH(CCCO)NH(H)CC(CO)NH





Side-chain NMR resonance assignment HCCH-TOCSY





4.構造情報(NOEやJカップリング等)の解析. 5.構造計算. Arg2-HD#

NOEの解析とは?



距離情報を集めることで, 立体構造 が決定できる理由





距離情報から立体構造を計算する



NMR情報をもとにした蛋白質の高次構造計算 Distance Geometry / Simulated Annealing



現状では、NOEが構造決定のための最も重要な情報である. NOEの解析と構造計算のステップが最も時間がかかる.

理由

- 1. 2D/3D/4D NOESYで得られるNOESYクロスピークのうち, ユニークに帰属できるのは一部である.
- ユニークに帰属できないNOE(ambiguous NOEs)の帰属は、 構造計算を繰り返して"iterative"に行う必要がある.
- 3. NOEの解析を手動で効率よく行うには, 蛋白質・アミノ酸の 立体化学的な知識と経験が必要.

NMRを用いた蛋白質の構造解析の全プロセスの中で 自動化が最も希求されるステップであるといえる.

昔使われていた,一般的な,構造計算の方法は以下の通り.



最近は...



構造計算の自動化が陥りやすい危険.

- 計算の最初の段階は構造情報の量が少ないので、
 ⇒誤った初期構造を導く危険性がある.
 ⇒比較的強度の大きいノイズに影響されやすい.
 初期構造を基に構造情報を絞り込むので、
 - ⇒初期構造における誤りに影響される危険性がある.

対策

- 1. ambiguous NOEsを正しく導入して,十分な距離情報から 初期構造を計算する.
- 2. 初期構造が「正しい」のかを評価する.
- 3. ノイズを効率よく除外する工夫をする.

「あいまいな」距離制限から 蛋白質の高次構造を計算する.

M. Nilges

"Calculation of protein structures with ambiguous distance restraints. Automated assignment of ambiguous NOE crosspeaks and disulphide connectivities." *J. Mol. Biol.* 245, 645-660, 1995

ARIA (Ambiguous Restraints for Iterative Assignment)

ARIAは、NOEデータを用いた蛋白質の高次構造計算に必要な 一連の作業を、完全に自動に"iterative"に実行する.

CYANA

Peter Güntert, ETH/RIKEN → Frankfurt Univ.

"Automated NMR structure calculation using networkanchored assignment and constraint combination"

「初期構造の情報がない状態」や「NOEの部分帰属がない状態」 からの信頼性の高い自動構造計算法の確立.

 Network-anchored assignment of NOESY crosspeaks. 複数のNOE情報が互いに支持する構造は確からしい. お互いに帰属を相補しあうNOEの組み合わせを優先する.

2. Constraint combination.

ノイズが含まれている可能性がある距離情報を2つづつペア にして(どちらかが満たされればいいという条件)導入し, 誤っ た距離情報が使用されるリスクを下げる.

"あいまいな"距離情報

"Unambiguous" NOEs

assign (resid 2 and name HN

(resid 2 and name HA

) 8.0 8.0 0.0 volume=-0.225 peak=246 ppm1=8.936 ppm2=5.133

"Ambiguous" NOEs

assign (resid 2 and name HN) (resid 25 and name HB2 ← 候補1 or resid 26 and name HA1 ← 候補2 or resid 30 and name HB1 ← 候補3 or resid 76 and name HB1 ← 候補4) 6.0 6.0 0.0 volume=-0.484 peak=300 ppm1=8.939 ppm2=3.764

NMR情報をもとにした蛋白質の高次構造計算 大腸菌Dinl蛋白質(84アミノ酸残基)



RMSD for residues 2–79 Backbone atoms: 0.57A, all heavy atoms:1.01A

あいまいなNOE情報を用いた高次構造計算 高次構造の精密化の例 根粒菌FixJのC末端ドメイン

RMSD Å (backbone / non-H)





NMRから得られる構造情報

- 1. 短距離の情報. NOE (¹H-¹H間距離) J-カップリング (ϕ, ψ, χ) ¹³C secondary shift (ϕ, ψ) Cross-correlation (ψ) ²H isotope shift (ϕ, ψ) <u>水素結合</u>
- 2. 長距離の情報.

Residual dipolar coupling (bond vector)

Rotational diffusion anisotropy, T₁/T₂ (bond vector) ¹H diamagnetic shift (¹H-ring, C=O, C-N) ¹H pseudocontact shift (¹H-paramag.) Curie spin-relaxation cross correlation (¹H-paramag.)



Residual dipolar coupling

蛋白質を弱く配向させると、例えばNH結合の¹J_{HN}は、本来の¹J_{HN}に residual dipolar coupling (D_{HN})が加算されて観測される. この D_{HN} は蛋白質の配向軸に対する角度の情報に変換できる. D_{HN} 由来の構造情報は曖昧さを含まず、NOE由来の情報とは独立. ⇒ 高次構造計算に有効である!



J.H.Prestegard Nature Struct. Biol. supplement

蛋白質を配向させる方法

- 1. 常磁性イオン
- 2. 両親媒性物質 DMPC/DHPC etc.
- 3. 超分子会合体 繊維状のファージ etc.
- 4. 繊維状高分子
 - セルロース
- 5. ゲル
 - 加圧したアクリルアミド

高次構造の評価は非常に重要!

同一のNMRデータから 異なった方法によって導かれた2つの構造





NMR法は構造決定の手段であるだけではなく, 相互作用などの機能解析にも非常に有用である.

NMRで相互作用を解析するメリット

- 1. 種々の実験を比較的容易に組むことができる. 異種多量体の系. 種々のタイトレーションが可能.
- 2. 相互作用インターフェイスの同定が容易. Chemical Shift Perturbation etc.
- 3. 交換速度に応じた解析.
 速い交換⇔中程度の交換⇔遅い交換.

NMRで相互作用を解析するデメリット.

- 1. 分子量の増大に伴う解析の困難さ.
- 2. 立体構造に直結する情報が得にくい.
- 3. 交換を考慮したデータの解析が必要.

HsRad51の N末端ドメインと dsDNAの相互作用

¹H-¹⁵N HSQC



